



NEWS

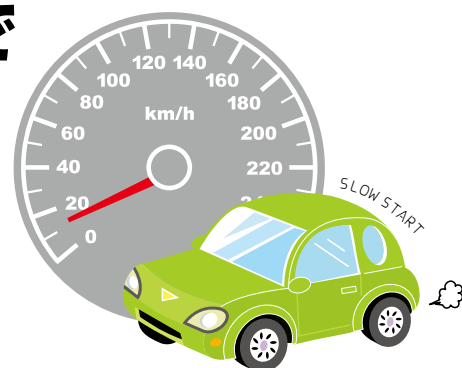
2009 No.217

4月号

全国整備工場の皆様へNGP組合員200拠点がお届けするお役立ち情報

お客様にエコドライブのアドバイスを

市街地では「ゆっくりスタート」で法定速度を守るのが基本 日常の自動車利用に注意してCO₂も排出削減

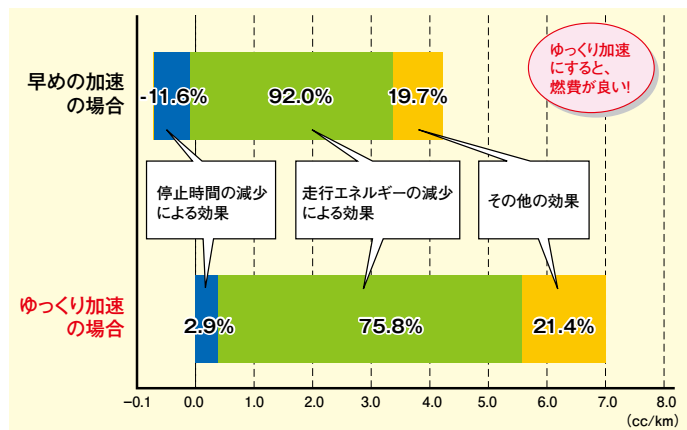


低炭素社会という言葉をも、盛んに耳にするようになりました。

二酸化炭素(CO₂)の排出を減らした社会ということで、自動車は燃費向上が課題に浮上します。

とくに最近、自動車の性能向上と同じぐらい、ドライバー1人ひとりにエコドライブを勧める動きが強まっています。

お客様へのエコドライブのアドバイスも大切です。



早めの加速か、ゆっくり加速か、エコドライブのアプローチは2つ。市街地走行にはゆっくり加速の効果が高い。スピードに乗ることがない分、停止時間が減少し、ブレーキ操作にともなう燃費ロスが減るからだ(出典:国立環境研究所「身近な交通の見直しによる環境改善に関する研究」)

日本のCO₂総排出量の約20%が運輸部門から排出されており、そのうち90%あまりが自動車から排出されています。CO₂排出量の削減を進めるためには、燃費改善などで化石燃料使用量を減らしてCO₂排出の低減を図ることが大きなカギとなります。

対策としては、すでに自動車メーカーに燃費改善目標を持たせて生産車両の低燃費化を進めています。また電気自動車やハイブリッド車、クリーンディーゼル車といったエコカーの投入も進んでいます。これに加えて最近、エコドライブの推奨が盛んに言われるようになりました。エコドライブを知らせる「エコインジケーター」なども新車に装備し出

しています。

このエコドライブの運転方法は、スタート時からゆっくり加速し、法定速度または規制速度以下で等速走行し、止まる時は早めのアクセルオフをすることだそうです。国の研究機関が調査研究を行い、報告しています。

まだマニュアルミッション(MT)車が多い欧州では、早く高速ギアに入れ、2500回転程度(ガソリン車)を維持し走行すること、具体的に示されています。これは低速ギアでもたもと加速するより、一息に効率の良いエンジン回転領域をもって行き、燃料消費の良い運転を心がける、ということを意味します。

日本で進める「ゆっくりスタート」はこれに比べると感覚的な表現で、エンジンの効率の良くない領域を使っているような気がします。

しかし、燃費へは走行エネルギーを削減することが大きく影響するそうです。エンジン効率が悪い低負荷領域を多用する「ゆっくりスタート」では、急加速の発進に比べ加速抵抗

が減少すること、さらにゆっくりスタートすることで法定速度以下の走行となるため、結果的に走行中の空気抵抗が減り、燃費の向上につながるのです。また、スピードが出ていない分、早めのアクセルオフでストップするとブレーキ操作による停止時間は短くなり、ここでも燃費は向上します。

これに基づき、①法定速度・規制速度以下の走行②等速運転③早めのアクセルオフ、を指示して運転させたところ、平均12%程度の燃費改善効果があったといわれています。ハイブリッド車でも同様な運転で、同じ燃費改善効果が出たそうです。ただしこれは信号でストップ＆ゴーを繰り返す日本の市街地での走行の話、高速道路では欧州的にアクセルワークで早めにシフトアップし、効率の良いエンジン領域を使い、定速走行することが効果的になります。

またこの調査は、自動車の使い方についても分析しています。調査は名古屋市、豊田市、つくば市で行っており、そこで自動車は短距離の利用が多く、1回30km未満の走行頻度は全体の90%超、その走行により排出されるCO₂は全体の60%超を占めていたそうで、日常生活で利用頻度が高い分野で「ゆっくりスタート」などのエコドライブをすることの意義は大きいのです。お客様に環境整備を勧めながらエコドライブのコツを分かりやすく伝えることも大切です。信頼関係も増すとと思うのですが、いかがでしょうか。

アフターマーケットの専門ショー IAAE2009 が開催

自動車電子化と環境問題対応で 新たなビジネス提案



第8回国際オートアフターマーケット EXPO (IAAE) 2009が3月12～14日の間、東京・有明の東京ビッグサイトで開かれました。最新スキャンツールの展示などもあり、電子化が進んだ車両に対する対応が新車販売後のサービス市場、アフターマーケットでも大きな課題となっていることをうかがわせました。NGP 協同組合も出展しました。

車両の電子制御が進んだことは、自動車のサービス市場でもさまざまな影響をもたらしています。とくにコントロールユニット診断機をはじめとしたスキャンツールは最新の自動車整備に欠くことができません。今年6月に予定されていたオートサービスショーが世界不況の影響で中止となったこともあり、ボッシュが修理手順書や配線図などを内蔵した最新のコントロールユニット診断機を展示するなど新製品の積極的な展示

が行われました。

IAAEは国際トレードショーとして回を重ねてきており、中国、台湾、タイ、マレーシアからの出展がありました。供給される部品・用品の精度は高くなっています。日本製オルターネータの互換品を出品していた台湾メーカーは、間接的に韓国・現代自動車に自社製品を納入しているそうです。補修用部品では値段が安く、品質の高いアジア製部品が日本市場への参入機会をうかがっています。

また、環境面では水性塗料に対応した塗装の実演やランニングコスト低減につながる乾燥システムなどの展示がありました。CO₂の削減は大きな社会的関心になっています。NGP 協同組合が参加するグリーンポイントクラブでは、自動車リサイクル部品利用に伴うCO₂削減量を利用事業者ごとに取りまとめ、整備事業者の皆様には知らせることが可能になります。システムのデモンストレーション展示でこのイメージを伝えました。



リサイクル部品のCO₂データベースを完成したJAPRA。グリーンポイントクラブの新展開をアピール



ウrawa産業はリビルトドライブシャフトの検索システムを披露、休日でも発注が可能なサービスを実現



台湾、中国、マレーシア、タイと海外からも出展。品質は年々向上しており、日本市場への参入を狙う



システムをアピールするブロードリーフ。業務効率化を提案して新規の顧客づくりを進めた



非接触充電で走行する小型電気バス。電池を効率の良いリチウムイオンに変えた実験が今年始まる



炭素繊維などの新素材展示も IAAE と同時開催された。軽量化には効果的だが、量産はまだ先か

NGP
出展

IAAE2009でエココンポ(オートパーツ)を披露 輸入車販売インポーターなど 意外なところからも引き合いが

NGP協同組合はIAAE2009に単独出展し、取り組み始めたリターンブル梱包材「エココンポ(オートパーツ)」と自動車リサイクル部品の利用促進を啓もうするDVDの上映をメインにブースを構成し、地球環境保全につながるリサイクル部品の役割を訴えました。ブースを訪れた整備事業者のお客様にはチラシ製作素材キットの「お客様と華しい!」を呈しました。

3日間の会期中、ドアのアッセンブリーの配送用に開発したエココンポ(オートパーツ)

は注目を集めました。環境負荷の少ない車社会の実現はメーカーから販売、整備事業者まで含めて大きなテーマになっています。従来の使い捨て梱包資材を繰り返し利用できるものに替えてゴミを減らしていくというNGP協同組合で始めたばかりの取り組みは、現在の社会的関心と方向が一致しており、輸入車販売会社や修理部品の販売会社などさまざまなところからの問い合わせや引き合いがありました。

自動車リサイクル部品は修理に利用する



IAAEでNGP協同組合最新の取り組みをPR

ことでCO₂の排出削減につながります。さらにその環境性能を高め、リサイクル部品が車社会の低炭素化に不可欠なアイテムとなるようNGP協同組合は業界の先端で努力を続けていきたいと考えています。

支部選出理事に聞く 第4回 東海支部 山下禮市理事・支部長

小委員会制で論議を深め、支部全体で歩きながら考える 課題は三重、岐阜、長野の会員拡大 バランスよい支部の展開で取引もサービスも充実したい

口より先に体を動かす組合員が多い支部で、支部長としては「大変助かっている」そうです。大きな課題は小委員会で検討する体制を取り続けて、機動的に深い論議を進めるようにしている点もユニークです。

一支部の課題を教えてください。

「会員を増やすことに重点的に取り組みたいと考えています。部品を販売するのにも、生産を増やすにしても数を増やすことは力になります。支部の組合員は愛知県内に8社ありますが、三重県は生産登録賛助会員を入れて3社、また岐阜、長野の両県は2社。支部のバランスを考えると、少ない3県で組合員を増やして部品の生産・販売に取り組みたいです。組織委員会ですらいろいろと見直して新規加入しやすい環境を作ってくれているので、支部全員で組合員拡大に取り組み、応えていきたいです」

一支部で雰囲気はどうですか

「支部の組合員は皆、フットワークがいいです。

課題に対して喧々諤々(けんけんがくがく)の論議をするより、すぐにひとつにまとまり、行動に移していくのも早いです。考えて歩き出すよりも歩きながら考えるタイプの組合員が多く、支部長としてはまとめやすく助かっています」

一軌道修正は柔軟ですか。

「しっかりしています。何かテーマがあると、みんなで考えると時間も手間もかかるので、3~5人でひとつ小委員会を作り、そこにテーマを振り分けて専門的に話し合ってもらったり、情報を集めたりして判断をしてもらっています。支部の伝統的な取り組み方になっています」

一取引先との関係では。

「使用済車両の入札は、愛知県では取引拡大が進み、台数も上がるようになりました。他の排出事業者さんからもかなりの台数をもらい、お世話になっています。販売面でも多くのお客様に活発に使ってもらうための対策を何か工夫したいと考えています」

一最後にシステム委員会の担当理事として

「システムは実用的には十分です。これからは利便性を考え、組合員からの要望に応じて機能を充実している段階です。5次開発では画像を取り込みお客様へアピールすることができました。今、検討中の6次開発では生産・登録が楽になるシステムにすることを目指しています。6次開発は次年度に着手する見通しです」



山下禮市(やました れいいち)
アーク代表取締役 1946年9月生まれ 62歳

次世代ガソリンスタンドの研究会

燃料供給側も次世代自動車への対応を本格検討

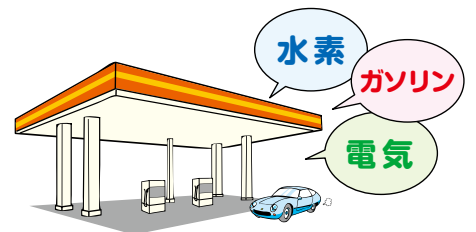
経済産業省・資源エネルギー庁が主導し、「次世代SS(ガソリンスタンド)のあり方に関する研究会」が開かれています。電気自動車、ハイブリッド車など次世代自動車が増えると、当然、ガソリンは売れなくなります。これまで自動車の燃料をほぼ一手に供給し続けてきたガソリンスタンドも、エネルギー変化への対応が迫られているのです。

論議の方向は、ガソリンスタンドが次世代自動車普及にも重要な役割を果たしていくことを主眼とし、電気自動車の普及のための充電方式のあり方やガソリンスタンド自身

のビジネスモデルを検討しています。電気ステーション、水素ステーションを併設したガソリンスタンドなどを思い描くことができます。研究会の中でも、そうした方向の論議も出ています。

現実問題としては、進んできた自動車の燃費改善に加え、ハイブリッド車の普及で燃料需要の減少は目に見えています。それを総合サービスでカバーしていかなくてはなりません。「自動車に関わらずホームエネルギー分野も前向きに検討すべき」などとした意見もあるようですが、やはりスタンド

はスタンド。ガソリンスタンドは数を減らしながらも、カーアフターマーケットのチャネルとして積極的な主張をするようになるかもしれません。どのような変化が起きるのか、注目したいところです。



NGP 今月のCO2削減量

NGP平成21年2月: **7,180t** (全12団体計: 12,923t)

1月からの累計: **15,070t** (全12団体計: 27,140t)

※1月の12団体計の集計に誤りがありました。14,218tと訂正します。なお、端数処理にともない累計数値は一致しません。

NGPをはじめとしたリサイクル部品販売事業12団体は、グリーンポイントクラブを作り、リユース部品、リビルト部品を利用することで達成できたCO2の削減量を利用者の皆様にお知らせしています。ご協力ありがとうございます。

第17回中級研修会を実施

NGP 協同組合を筋肉質にする人材を育成

第17回中級研修会が3月23～27日、静岡県裾野市のあいおい東富士研修センターで開催されました。厳しい経営環境の中で生産



講習でリーダーシップと「成功のために準備する」心構えを学んだ

9名、フロント7名、営業1名の組合員各社の中堅社員が参加、厳しさに向って折れない心

とリーダーとしての統率力を学びました。福島リパーツの遠藤徹さんは、研修会参加者がひとつの会社だったら「大きく伸びる」と感じたそうです。「一人ひとりが意見を持ち、改善策を考える。そうしたことに取り組むための知恵を研修で学ぶことができた」と言います。

「これからは自分に自信を持ち、研修で学んだリーダーシップを発揮したい」と話すツクダ自動車の東一登さんは、「今まで実施したいと思っていた計画を明日から早速実行したい」

と意気込みを新たにしました。



お客様第一のため技術のマスターは重要課題

営業で中級研修を受けたトヨタエコパーツ岐阜の武田猛彦さんは、「心がひとつになれば何でもできる。成功のための準備をする」という岩井悟朗教育委員長の締めくくりの言葉を胸に刻み、「これからもこの言葉を忘れずに仕事や人生に活かしたい」と決意しました。参加者全員がリーダーとなり、不況を乗り切る第1歩を踏み出しました。

中国平安が日本リサイクル部品業界の現状調査でNGP本部へ現場視察でCRS埼玉を訪問

中国最大の民間保険会社、中国平安が3月12日、東京・港区のNGP日本自動車リサイクル事業協同組合本部に来訪しました。中国平安財産保险股份有限公司の曹阳副曹經理をリーダーとする5名で、中国平安と提携しているあいおい損害保険が保険事故に関わる日本の自動車修理事情とリサイクル部品の活用を紹介するため、案内してきたものです。

当日は玉木基裕事務局長らが対応し、日本の

リサイクル法と使用済み自動車の適正処理状況、中古部品の市場状況などを説明しました。また、昨年末、NGP協同組合が寧夏回族自治区政府と自動車リサイクルの発展協力で覚書に調印したことを説明し、友好関係を深めました。

中国平安一行は、日本の中古部品市場は進歩的であいおい損保との全損オークションやNGPダイレクトの提携型取組展開に高い関心を示しました。本部での説明後、埼玉県川越市



日本のリサイクル事情を熱心に聞く中国平安メンバーのCRS埼玉を現場視察で訪れ、使用済み自動車の適正処理と中古部品生産がどのように行われているかを見学しました。周囲の環境への配慮や商品品質の確保についての取り組みに感心を深めたようです。

オートパーツ伊地知

地域環境貢献で功労者表彰

九州支部のオートパーツ伊地知（伊地知志郎社長、鹿児島市）は鹿児島市の環境衛生功労者として表彰を受けました。表彰は2月20日に鹿児島市中央公民館で開かれた第51回環境衛生大会で行われ、出席した伊地知社長が鹿児島市長と鹿児島市衛生組織連合会会長の連名による表彰状を受け取りました。

鹿児島市は「きれいな街づくり」に熱心で、まじめに環境管理に取り組む事業所を「環境管理事業所」として認定する制度や功労者に対する表彰事業を実施しています。オート

パーツ伊地知は環境管理事業所として認定を受けており、また昨年は鹿児島市の美化推進衛生団体に申請し、登録されました。こうした自動車リサイクル事業者としての地域に根ざした活動が評価され、表彰を受けたものです。

同社の地域美化活動は1997年に会社近くの谷山インター入口に不法投棄されたゴミを拾い、地域の景観保全に取り組んだことが始まりです。自分たちの身の回りの小さなことから始めた活動は現在も継続しており、



表彰を受ける伊地知社長（中央）

毎月1回社員全員で地域の清掃活動をしています。本業の自動車リサイクルを通じた使用済み自動車の適正処理と同時に地域の奉仕活動・美化推進への貢献に取り組むことも大事な時代になっています。

訃報

3月18日、有限会社まるふく八田商会（北海道上川郡剣淵町）取締役会長の八田定良（はった・さだよし）様がお逝去されました。享年78歳。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL: 03-5475-1208 FAX: 03-5475-1209
http://www.ngp.gr.jp

(株)NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL: 03-5475-1200 FAX: 03-5475-1201